

### 街角情報・・・

浦和区東仲町で小中学生を対象に学習塾を開いている、吉田雅人さんをご紹介します。



吉田さんは30年前から様々な学習塾で教えてきましたが、現在は単なる進学するための塾でなく本当の考える力を身に付けることを目的として国語と算数・数学を教えています。特に小学生の国語では、自ら児童文学書を500冊以上読んだ中から選定し、生徒間で討論し、記述するというユニークな課題授業をしています。

吉田さんのもう一つの顔は、環境問題に取り組んでいることです。NPO法人埼玉グリーンプラの副理事長兼事務局長をつとめ、生分解性プラスチック(愛称グリーンプラ・バイオマスプラスチック)の啓蒙と利活用を行っています。また、地球温暖化や原発問題などの環境問題にも本格的に取り組む、啓蒙活動を進めています。そんな吉田さんに来月から「うらわ宿」紙上で、地球温暖化の現状やCOP22やパリ協定の問題についてわかりやすく解説をお願いしています。どうぞご期待下さい。(古澤)

「街角情報」は、浦和区の人、店、風景、歴史、名所などを紹介するコーナーです。



## うらわ宿文芸

### うらわだより

解体屋の家系

親 郵政

子 農協

小泉家

(東口 さぶ老)

チェンジ

「憲法」ではなく、「安倍政権だ」

国民

(岸町 佐久間純)

川柳

核兵器禁止を拒む被爆国

遠退いたTPP頼みのアベノミクス  
ジョーカーを引かれ慌てる安倍・財界

(東口 さぶ老)

失政を多弁でこまかす安倍政権

オバマさん任期中に何をしたら  
またやった強行採決許さない

(岸町 だん吉)

### 俳句

水底や落ち葉の上を緋鯉遊ぶ

(岸町 佐々木幹広)

訪ねても訪ねても留守冬の草

花八つ手余生などなく逝きし兄  
寒灯の零るる窓やあるじ病む

(前地三 S・M)

標本の翅を正して冬支度

胸張ってあるは鳥のみ冬の園  
降る雪の速さ大きき揃ひだす

(本太一 Y・Y)

絵手紙(北浦和 浜本とみ子)



明治村にて三句  
小春日や高等遊民集う部屋  
紅葉色写し寝る猫苦沙弥宅  
手に輝く明治の女立ちし土間  
(前地三 寿美礼)

### 「日々想」

職場では社会的、家では自閉症と言われている子どもはとくに巣立ち、夫と猫一匹の三人(?)暮らし。仕事から帰ると好きな読書に没頭するが、その時大切なのは視界に夫が入らない事。ある有名な建築家の弁にヒントを得た。「定年退職などで夫婦が一緒にいる時間が長くなったら、家の中に死角を作りお互いが視野に入らない時間をつくること。大事にしたい話は大変変わるが、友だちに犬みたいになつてい男性がいる。彼が帰宅して家族が寛ぐ居間に嬉々として入っていくと、奥さんから一言。「ハウス！」笑えないようにして笑える。(ち)

# うらわ宿

日本共産党

日本共産党浦和区後援会ニュース  
2016年12月号 66  
浦和区北浦和3-14-16  
TEL/FAX 048-833-4515  
\*\*\*\*\* (部内資料) \*\*\*\*\*

## 市長選候補者決まる！

みんなの市長実現で、暮らし優先のさいたま市を  
さいたま市議会議員 とりうみ敏行

皆さんこんにちは。早いもので12月に入りました。朝晩の冷え込みも一層厳しくなっていますので風邪などひかぬようご自愛ください。  
さて、9月議会ではH27年度の決算が、共産党や自民党などの反対で不認定になったことはすでにお知らせしたとおりです。来年行われる市長選挙を前に何としても独自候補を出したいと執念を燃やす自民党は、毎年の予算には賛成しながらも、清水市政との違いを明確にしようとの対決色を示しています。清水勇人市政の2期8年は、私たち市民にとってどのような姿勢だったでしょうか。大型開発には多額の税金を惜しげもなくつぎ込み、数々のイベント(国際芸術祭・自転車競技・国際マラソン)で人を呼び込んで「選ばれるさいたま市」をつくる言いながら、一方では敬老祝い金削減、市民税や下水道料金の値上げ、保育園、市営住宅、高齢者施設などの増設は、「公共施設マネジメント」計画でほとんど新設は行いません。消費税8%への増税なども加わって市民生活はかつてなく疲弊しているのにこの12月議会では2年連続で、議員や市長、副市長、教育長などの期末手当引き上げの議案を提案するなど、市民の生活の厳しさを一顧だにせず、その姿勢は多くの市民から批判の声が上がっています。  
こうした中で、毎回の市長選挙で、日本共産党も参加する、「みんなのさいたま市をつくる会」が、12月2日の代表者会議で予定候補者を発表しました。この記事が読者の目に触れるころには記者会見も行われて、正式に発表されることでしょう。永い間市内の小学校の教員を務め、この間の安保法制廃止の県民運動の中心を担って活動を広げられたM先生です。  
今度こそ私たちの市長を送り出しましょう。私も全力で取り組みます。

## シリーズ 日本国憲法を生かして格差・貧困の克服を 改憲問題 4 彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表理事 白鳥 勲さん

11月12日にオール浦和区の会講演と結成のつどいが行われ後援会の方も多数参加し、80名を超える活発な集いとなりました。講師の白鳥勲さんは40年間高校教師を務められ、現在は生活保護所帯などの中高生の自宅訪問や学習教室を7年間続けています。全国ですすめられている学習支援塾の責任者もされています。今回シリーズ改憲問題No.4では、白鳥先生のご好意により講演会の内容をご紹介します。

\*憲法の理念を生かして、すべての子ども・若者に温もりある社会を\*  
昨年、生活困窮者自立支援法が成立した。厚生労働省と各自治体が2分の1ずつの費用を出して生活困窮者の子どものための学習支援塾が今、全国に展開されている。無料で学習教室に子どもたちを誘って、マンツーマンで教えている。埼玉県では、全国に先駆けて7年前からこのような学習運動がすすめられて

きた。  
\*わからないことはわからないと言う\*  
4人に1人が生活保護所帯。家庭訪問して驚いたのは平日の昼間だというのに中学生6~7人の1人が家にいること。引きこもりで不登校になっている。貧困問題は特に2000年以降に顕著にあらわれてきた。前年に労働者派遣法が成立。それまで多少賃金が安いけれど、正社員として働いてきた(2面に)

(1面より)

人たちの多くが解雇され、派遣・非正規社員になった。先が見えない中、貧困化がすすみ、親が子どもたちの世話ができなくなる。大人社会が崩れて、子どもの発達に蝕まれる。私たちの教えている中学生の半分は小学3年～4年生の学力でストップしている。中学1年生で学ぶプラスとマイナスがわからない。大人に質問したり、困っていると言うことができない。困ってもSOSが出せない。こう

いう中で、私は子どもに言うことは1つだけ。「大変だけど、わからないことはわからないと意思表示することがあなたの方の仕事です」これしか言わない。子どもは2時間の授業の中で1つでもわかると霧が晴れてという心境になり、とりあえず、明日学校に行ってみようかと心の変化が生まれる。

**\* 子どもの貧困率16.3%の現実 \***

母子世帯の生活費は月平均15万円。母1人子1人として2人で1食300円から400円の食事しかとれない。親の経済力で学びの機会に差が出て、子どもの発達の可能性が奪われ、低学力、不登校、いじめが生まれる。

**\* 子どもの貧困とは \***

貧困世帯の子どもたちは親のいろいろな困難を背負い、学校に行けば競争を強いられ、自己責任を言われ、卒業してからもいい仕事に就けない。いろいろな困難をずっと背負っていく。これが貧困の実態である。



**\* 奪われた「連帯する心と技術」 \***

競争に勝つことが第一。戦争ができる国づくりの一環として、教育は国家の統治行為(安倍教育再生会議)と位置づけられ、労働政策、労務管理として少数のエリートと学力の低い大量の若者が作りだされている。

**\* 家庭訪問と学習教室の7年間 \***

政府も貧困の存在をやっと認め、2013年に子どもの貧困対策法をつくった。私たちは、奨学金問題や生活保護世帯、就学援助世帯、失業世帯に働きかけて、家庭訪問や学習塾をすすめている。現在、埼玉県内で73教室の運営が公的な費用で行われている。

**\* 事業を支えた原動力 \***

貧困問題は国が行うべき政治の問題だ。行政をはじめとしたたくさんの方がかかわってきた。最近では、県内すべての政党が応援し熱心にとりくむまでになった。

**\* いま、やるべきこと \***

「主権者教育を学校地域で」「行政、地域で貧困をなくし、子

どもたちを暖かく見守り、学習到達度を向上させ。健康的な生活習慣を促進・支援しよう。公平性を子どもの幸福度の課題の中心に位置づけよう」

\* \* \* \* \*

教育現場を熟知している先生だけに、憲法に基づいた教育の実現、子どもたちの幸福の実現についてのお話は迫真の講演でした。(編集部 阿久津)

**(参加者の感想より)**

・休みなしで働いてきた。働くのをやめて年金生活にはいったが、2ヶ月で11万円にしかならず、今は生活保護を受給している。私も子どもも生活に追われ、貧困問題を考える余裕すらない。これが社会の現実だから、少し余裕のある人が考え、市民レベルで例えば公民館で母子家庭の子にご飯をつくってをあげるなどしていくことが大事だと思う。そうでないと変わらない。(Bさん)

・子どもたちの経済的貧困を利用して、兵隊にいかざるを得ない状況をつくり出そうとしている。障がい者も動員される恐れがある。今の世の中、おせっかいが必要。想像を働かせて子どもに対応していくことが大切なこと(Dさん)



り、安倍首相への怒りの声が多数だった。森でした。国会で、野党統一候補だった伊波参議院議員は米軍基地に苦しむ沖縄の人々の闘いにふれ、とりわけ高江ではヘリパッド建設のためやんばるの森が伐採されていると訴えました。その森には絶滅危惧種のノグチゲラの営巣地が70、80もあり、自然破壊が深刻だとしたことでした。帰りのバスでは、当日駆けつけ警護が付与された自衛隊の南スーダンへの出発の日だったこともあり、安倍首相への怒りの声が多数

11月20日、「安民法制の発動許すな！人間基地拡張ストップ！緑の森を守ろう！」をスローガンに11・20埼玉県集会在間市彩の森人間公園で行われました。浦和からはさいたま南平和委員会のバスで26人が参加しました。集会参加者は3000人超。到着後、平和委員会のスタッフの案内で自衛隊病院が作られようとしている留保地(旧米軍基地跡地)の見学に向かいました。公園の中を5分も歩くとフェンスの向こうは大木が林立するうっそうとした森でした。

**基地はもういらぬ  
11・20埼玉県集会開かれる**

聞かれました。米軍基地もいらぬが、自衛隊の基地もいらぬ。九条守って平和な日本に。阿部首相に「平和」の言葉を使っ てほしくない。百里基地に行つたが、自衛隊機を飛ばすと燃料代が一回100万円もかかるという、年金が下がるというのにひどい話だ。福島では今でも仮設住宅で暮らしている。その一方軍事費を増額するのは納得できない。バスで初めて集会参加したが楽しかった。自己紹介や感想も聞けたし、歩かず会場に横付け、パレードで疲れても解散場所も待っていてくれた。(編集部)



松元ヒロさんの「ケンポー君」を観た。日本国憲法の擬人化である。「僕はケンポー、今年で70歳、最近ボクが現実合わないから変えようって話が・・・。おかしいじゃないですか？ボクは理想だったはず、それを・・・

この文は、日本国民として生まれてすごく誇らしかった。よく「今の憲法で日本は守れるの？」と聞かれる。変えたら日本を守れるかと言うと、違うのではないかと。軍隊があるから攻めてくるな！と言ったところで、普通は現実を理想に近づけよう

**ケンポー君**

せめてくる奴は攻めてくるし・・・。

と努力するのに、理想を現実と合わせるって?・・・」因みにヒロさんは、憲法『前文』の全文を誦する・・・圧巻である。小学校で習った憲法の前文「日本の国民が世界平和を・・・」って、なんてたいそうな・・・。しかし、子どもの頃読んだこ

今でも個別自衛権もあるしテロ特措法もある。私は、不自由を感じない!! さて、松元ヒロさん、毎月3日、「アベ首相を許さない」国会前行動でお会いした。笑いと共に元気をもらえるから不思議だ。(木崎一 I.N)

ススキの穂が風に揺れてました。サトイモの大きな葉が朝露を集めて水玉を作っていました。水玉は、葉の上で日の光を受けコロコロ回っていたが風に吹かれてポトリと落ちました。そんな晩秋を過ぎると見沼田圃にも冬

**冬の見沼田圃**

これは驚きだ。冬でも

がやってきます。農家の庭にある一本の柿の木も葉を落とし、冷たい北風がまとわりつく。枝の先に一個の実がある。吸い込まれそうな青い冬空に鮮やかな紅色をして吊り下がっている。冬を越す鳥たちのために残した

見えるのは数日、春夏秋冬は、どんなに晴れても姿を見せることはない。冬の見沼田圃は、青空の下冷たい北風をやり過ごすように静かに春を待ちます。人の影はない。(領家 仙億勝蔵)

**浦和区、緑区、見沼区、岩槻区4区合同講演会**

12月14日(水)18時30分開会  
さいたま共済会館6階  
「市民と野党の共闘をどうすすめるか」  
～参院選、県知事選をたたかった新潟の実践から学ぶ  
講師 瀧澤豊秋さん(新潟県革新懇代表世話人)

**市政報告会&もちつき&忘年会**

12月17日(土)10:00～ 瀬ヶ崎自治会館  
市政報告 とりうみ敏行市議会議員  
主催 浦和東後援会  
**浦和区後援会望年会**  
12月17日(土)14:00～  
コラボ21 会費1,000円  
どなたでも参加できます。大いに語りあいましょう。



**\* 耳より情報 \***

